



秋田の豊かな 未来のために

[秋田市観光クチコミ大使]

第一勧業信用組合 副理事長

赤平 眞樹雄 氏

秋田の思い出

昭和28年に秋田市上米町1丁目（現大町1丁目）に生まれた私にとって、秋田市は都会と自然が共存する街でした。歩いて5分のところに木内、本金の2つの百貨店があり、秋田駅まで10分で、当時は人とすれ違うのも難しいほどにぎやかな駅前金座街がありました。自然といえば、春は千秋公園の桜、つつじ、夏は近くの川でホタル狩り(?)、秋にはイナゴを捕って、冬はスキー通学。また、夏の竿燈まつり、土崎港曳山まつりも忘れられない思い出です。

現在の仕事

現在は第一勧業信用組合という、東京は四谷に本社のある会社におります。信用組合は、相互扶助の精神をモットーとした、組合員のための金融機関で、全国で154組合があります。秋田には、秋田県信用組合があり、私どもと業務提携協定を結んでいます。「地方から東京へ」のモノの流れを実現するために、秋田の物産を販売、また、「東京から地方へ」のヒトの流れを実現するために、観光旅行にお連れすること等、様々な企画を実行しております。

もうひとつ力を入れているのが、若者、女性の創業支援です。去年1年間で、約150人の創業者の皆さんに、10億円の融資とファンドによる投資を行いました。秋田でも秋田県信組の北林理事長は、どじょうの養殖業者、あるいは間伐材を利用した電力事業者等、多くのベンチャー企業に対し応援しているのを見て、大変感動いたしました。

秋田の今

昨年の竿燈まつりで秋田県信組の北林理事長にご招待を受け、地元の市内中心部を廻ったところ、驚いたのが空地の多さです。有効利用はなかなか難しいにしても、空地のままではあまりに寂しいという印象を受けました。また、全国的に問題になっている空家、あるいはシャッターのおりている商店も数多く見受けられました。

更に、木内、本金、金座街のような街のランドマークがなくなり変容していることに気づきました。もちろん、新しいところはできていますが、半世紀前のにぎわいには程遠いようです。

豊かな未来の秋田

- 秋田市のこれからのために、私自身の抱負は次の5つです。
 - (1) たくさんの人（秋田を知らない人、来たことのない人）を秋田市に連れてくる
 - (2) 秋田市の物産（特に食品）を首都圏の飲食店、小売店にPRする
 - (3) 秋田市の飲食店を、観光のために秋田に来る他の信用組合のお客様にPRする
 - (4) 東京にある秋田料理の店にお客様や他の信用組合のお客様をお連れする
 - (5) Iターン、Uターンや就職のための拠点として当組合の本店活用を提言する
- 秋田市の現在の課題に対する案としては、
 - (1) 秋田市中心街～駅前～旭川～寺町近辺までの活性化＝空地、空家問題の解決のために何をするか
 - ① シェアハウス、シェアオフィスとして、安い賃料、行政他の支援を目玉に起業家の卵を集める
 - ② 彼らから空家・シャッター通り・空地のリノベーション案を出してもらい、皆で審査、その中から実現できるものに取り組む
 - (2) 秋田駅前～土崎までの市電の復活
三ノ輪橋～早稲田の都電荒川線や富山市電、広島市電等を参考に、秋田の中心街、その途中駅の活性化を目指す
- 最後に秋田は冬が（も）！とても素晴らしい街であることを県外の皆さんに強調していただきたいと思います。確かにかなり寒く、雪も昔ほどではないにしてもそれなりに積もりますが、食べ物、お酒のおいしさは何ととっても冬です。また、秋田の冬は千秋公園の雪景色、大平山スキー場等、足を延ばさずとも近場で楽しめるのが良いところです。私も今後とも秋田市観光クチコミ大使として応援していきたいと思います。

■略歴

1953年	秋田県秋田市生まれ
1972年	秋田県立秋田高校 卒業
1976年	東京大学法学部 卒業
同年	第一勧業銀行（現みずほ銀行） 入行
2012年	第一勧業信用組合 副理事長 現職